

平成29年壱岐市子ども議会 会議録目次

会期日程	1
上程案件及び議決結果一覧	1
第1日（8月29日 火曜日）	
議事日程表（第1号）	3
出席議員及び説明のために出席した者	3
開会	4
議長挨拶	5
開会（開議）	5
会議録署名議員の指名	6
会期の決定	6
一般質問	
勝本中学校 1番 下條 理喜 議員 2番 土肥ちひろ 議員	
3番 大久保都羽 議員 4番 川上 陽子 議員 ...	6
芦辺中学校 5番 長元 愛奈 議員 6番 安永 龍生 議員	
1 1番 日高 大地 議員 1 2番 長嶋 愛莉 議員 ...	1 3
石田中学校 7番 長島 来希 議員 8番 市村 渉真 議員	
1 3番 平田萌々香 議員 1 4番 松永 彩花 議員 ...	1 8
郷ノ浦中学校 9番 加藤仁一郎 議員 1 0番 黒木向日葵 議員	
1 5番 吉田香友葵 議員 1 6番 日高 綾祐 議員 ...	2 4
議案の審議（説明、質疑、委員会付託省略、討論、採決）	
発議第1号 壱岐市子ども宣言の決議について	3 1
教育長講評	3 3
市長挨拶	3 6
子ども議員代表謝辞	
郷ノ浦中学校 黒木向日葵	3 7
閉会	3 8

平成29年壱岐市子ども議会を、次のとおり開催します。

平成29年 8月18日

壱岐市議会議長 小金丸益明

- 1 期 日 平成29年 8月29日（火）
- 2 場 所 壱岐市議会議場（壱岐西部開発総合センター 2F）

平成29年壱岐市子ども議会 会期日程

日次	月 日	曜日	会議の種類	摘 要
1	8月29日	火	本会議 (9:30~)	○開会 ○会期の決定 ○一般質問 ○議案の上程、説明 ○議案審議 (質疑、委員会付託省略、討論、採決) ○閉会 ○会議録署名議員の指名

平成29年壱岐市子ども議会 上程案件及び議決結果一覧

番 号	件 名	結 果	
		審査付託	本会議
発議第1号	壱岐市子ども宣言の決議について	省 略	原案のとおり可決 (8/29)

平成29年 壱岐市 こども 議会 会議 録 (第1日)

議事日程 (第1号)

平成29年8月29日 午前9時30分開会 (開議)

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

勝本中学校 1番 下條 理喜 議員

2番 土肥ちひろ 議員

3番 大久保都羽 議員

4番 川上 陽子 議員

芦辺中学校 5番 長元 愛奈 議員

6番 安永 龍生 議員

11番 日高 大地 議員

12番 長嶋 愛莉 議員

石田中学校 7番 長島 来希 議員

8番 市村 渉真 議員

13番 平田萌々香 議員

14番 松永 彩花 議員

郷ノ浦中学校 9番 加藤仁一郎 議員

10番 黒木向日葵 議員

15番 吉田香友葵 議員

16番 日高 綾祐 議員

日程第4 発議第1号 壱岐市子ども宣言の決議について

本日の会議に付した事件

(議事日程第1号に同じ)

出席議員 (17名)

1番 下條 理喜君

2番 土肥ちひろ君

3番 大久保都羽君

4番 川上 陽子君

5番	長元 愛奈君	6番	安永 龍生君
7番	長島 来希君	8番	市村 渉真君
9番	加藤仁一郎君	10番	黒木向日葵君
11番	日高 大地君	12番	長嶋 愛莉君
13番	平田萌々香君	14番	松永 彩花君
15番	吉田香友葵君	16番	日高 綾祐君
17番	小金丸益明君		

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

事務局長	土谷 勝君	事務局次長	米村 和久君
事務局書記	若宮 廣祐君		

説明のため出席した者の職氏名

市長	白川 博一君	副市長	中原 康壽君
教育長	久保田良和君	総務部長	久間 博喜君
企画振興部長	左野 健治君	市民部長	堀江 敬治君
保健環境部長	高下 正和君	建設部長	原田憲一郎君
農林水産部長	井戸川由明君	教育次長	山口 信幸君
総務課長	中上 良二君	財政課長	松尾 勝則君

午前9時30分開会（開議）

○事務局長（土谷 勝君） 皆さん、おはようございます。

本日は、夏休み期間中、そして何かと御多用の中にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

これより、平成29年壱岐市子ども議会を開催いたします。

それでは、本子ども議会の主催者を代表いたしまして、壱岐市議会議長小金丸益明が御挨拶を申し上げます。

〔議長（小金丸益明君） 登壇〕

○議長（小金丸益明君） 皆さん、おはようございます。

壱岐市議会議長の小金丸益明でございます。

本日の子ども議会の開催に当たりまして、壱岐市議会を代表いたしまして、一言御挨拶を申し上げます。

先ほど行いました、子ども議員任命交付式におきましては、皆さんのりりしい顔を拝見しますと、これから始まる子ども議会に対する強い熱意・意欲が伝わってまいります。

今回の子ども議会も、市内の中学校を代表し、16名の皆様に子ども議員として御参加いただきました。まことにありがとうございます。

さて、皆さんがいる、この会場は、壱岐市議会の議場といいます。ここでは、市民の皆さんが安全で安心して暮らせるように、いろいろな問題や課題について、議論をするとても神聖で重要な場所であります。

将来の壱岐市を支えていく皆さんが、市議会の貴重な体験をしていただき、未来の議員として活躍されることを期待しております。

また、傍聴席におられる関係者の皆様方におかれましては、本日、何かと御多用のところ、そして、暑さ厳しい折にもかかわりませず、子ども議会にお越しいただきまして、まことにありがとうございます。また、平素より、議会運営に対しまして温かい御理解と御協力に厚く御礼申し上げます。

壱岐市議会といたしましては、市民を代表する議決機関であることを常に自覚し、公正性、透明性及び信頼性を重視するとともに、市民に開かれた議会運営を目指してまいります。

皆様方におかれましては、今後も、より一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

結びに、本日の子ども議会の開催に当たりまして、多大な御尽力をいただきました保護者の皆様並びに校長先生を初め関係者の皆様方に、心から御礼を申し上げますとともに、どうか最後までしっかり傍聴していただきますようお願いを申し上げます。

本日は、壱岐ビジョン、壱岐エフエムで生中継をし、後日9月2日、土曜日、3日、日曜日いずれも午後8時から録画放送を行う予定となっております。ぜひ子ども議員の皆様、どうぞ最後まで元気いっぱい頑張ってください。

簡単ではございますが、これで開会の挨拶とさせていただきます。皆様の今後の活躍を期待いたしております。

〔議長（小金丸益明君） 降壇〕

○事務局長（土谷 勝君） それでは、ただいまより子ども議会を開会いたします。

○議長（小金丸益明君） 会議に入る前に、あらかじめ報告いたします。

壱岐新聞社ほか2名の方から報道取材のため、撮影機材の使用の申し出があり、許可いたして

おります。また、機器操作のため、関係者の立ち入りを許可いたしておりますので、あわせて御了承願います。

本日は、一般質問の答弁のために、市長ほか関係部課長の出席を要請しておりますので、よろしくお願いいいたします。

ただいまの出席議員は16名であり、定足数に達しております。ただいまから平成29年壱岐市子ども議会を開会いたします。これより本日の会議を開きます。

日程第1. 会議録署名議員の指名

○議長（小金丸益明君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

本会議の会議録署名議員は、会議規則第88条の規定により、1番、下條理喜議員、2番、土肥ちひろ議員を指名いたします。

日程第2. 会期の決定

○議長（小金丸益明君） 日程第2、会期の決定についてを議題とします。

お諮りします。本会議の会期につきましては、本日1日としたいと思えます。御異議ございせんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小金丸益明君） 異議なしと認めます。よって、本会議の会期につきましては、本日1日と決定いたしました。

日程第3. 一般質問

○議長（小金丸益明君） 日程第3、一般質問を行います。

以前より、行政に対していろいろな要望等がありますが、全てを行政が行なえるものではありません。行政がやるべき部分と民間でやれる部分を判断して市長、教育長が答弁を行います。

あらかじめ申し上げます。一般質問の時間は質問、答弁を含め20分以内となっております。よろしくお願いいいたします。

一般質問通告者一覧表の順序によりまして、順次登壇をお願いいたします。

それでは、質問順位に従い、勝本中学校、1番、下條理喜議員、2番、土肥ちひろ議員、3番、大久保都羽議員、4番、川上陽子議員の登壇をお願いいたします。

〔下條 理喜議員、土肥ちひろ議員、大久保都羽議員、川上 陽子議員 一般質問席 登壇〕

○議員（勝本中学校） 勝本中学校は、市外との交流について、質問と提言をいたします。

1つ目にふるさと納税についてです。ふるさと納税は、注目度が高く、各自治体の返礼品などがメディアで話題になることも多いようです。壱岐市のふるさと納税についても、年々寄附額が増加し、昨年度は1億4,000万円を超えたと聞いています。壱岐に縁のある方や旅行で訪れた方、知人の紹介などで壱岐のことを知った方々が、壱岐やそこに住む私たちを応援しようと寄附をしてくださることをとてもうれしく思います。また、市政を運営する上では多くのお金が必要です。昨年度だけでも、ふるさと応援基金から8,000万円以上が充当されていることから、ふるさと応援基金に大きな役割があることがわかります。

ふるさと応援基金の活用には、実りの島プロジェクト、しまの未来を担う人材育成プロジェクト、安全・安心で充実したしま暮らしプロジェクトと大きく3つのプロジェクトがあることがわかりました。しかし、それぞれのプロジェクトの詳しい中身がわかりづらいと感じました。この3つのプロジェクトの詳細と、実際にどのようなことにふるさと応援基金を活用したのかを具体的に教えてください。

続いて、提言に移ります。

ふるさと応援基金に関するプロジェクトをもっと市民にわかるように提示してはどうでしょうか。応援基金の種類について知るだけでも市民の関心が高まると思います。私たち中学生のために使われていることも多いでしょうから、知っておくことも大切だと思います。市民の中にもほかの自治体への寄附を考える人が出て来るのではないかと思います。

1、実りの島プロジェクトについて。島ごとパワースポットといわれる壱岐の歴史、文化遺産を目的に訪れる人もいます。日本遺産に認定された古墳や1,000以上あるといわれる神社周辺を可能な限り整備することに使うことはできないでしょうか。

2、しまの未来を担う人材育成プロジェクトについて。豊かな農水産物が壱岐の魅力の一つです。農業、漁業従事者を確保するための補助はできませんか。また、農水産物を加工したものを開発し、流通させることで壱岐での雇用拡大にもつながると思います。その開発のための補助があればいいと思います。

3、安全・安心で充実したしま暮らしプロジェクトについて、市内でも町部以外では街灯が少なく、夜、とても危険だと感じています。街灯をつけて、より安全に歩けるようにしてほしいです。

2点目に、有人国境離島法についてです。

今年度4月から、有人国境離島法が施行されました。博多や唐津行きのフェリーなどを利用すると、運賃が引き下げられているので、私たちもより身近に感じています。

この法律は、離島地域社会の維持のためにつくられ、たくさんの交付金もあると聞いています。まだ5カ月ほどしか経過していませんが、航路・空路運賃の引き下げや壱岐市ふるさと商社設立

以外に、どのような変化が見られたり、どんな取り組みがなされているかを教えてください。

また、航路・空路運賃の引き下げによって、これまでよりも島民が島外に出ることがふえてい
るのではないかと考えます。それでは、経済の活性化は期待できないと思いますが、どうでしょ
うか。運賃の引き下げは、島外利用者については、団体旅行にのみ適用されると聞いています。
実際は、個人で壱岐を訪れる人もたくさんいらっしゃいます。今後、島外利用者も含めて一律で
運賃が引き下げられることはありますか。

続いて、提言に移ります。

この法律の地域社会の維持に関する施策の基本的な事項の中から、雇用機会の拡充について考
えました。中でも、壱岐は豊富な観光資源がある魅力的な島であることから、滞在型観光の促進
のために、できることはないかを考えました。

先ほどのふるさと応援基金の活用とは別に、延泊者やリピーターをふやすために、民泊を取り
入れるといいと思います。県内でも、松浦市や五島などで取り組まれています。普通の宿泊施設
よりも民泊をすることで人とのつながりが濃くなるのはもちろんですが、より深く壱岐の文化を
体験してもらえんと思います。民泊によってできた人のつながりは、後々も続くでしょうし、リ
ピーターも確実に出てくると思います。

また、島外から多くの参加者がある新春マラソン、サイクルフェスティバル、ウルトラマラソ
ンについて、参加申し込みをすれば、航路・空路運賃が引き下げられるようにすれば、島外から
の参加者もふえ、一層盛り上がるのではないのでしょうか。

以上で、勝本中学校の意見と提言といたします。

○議長（小金丸益明君） ただいまの勝本中学校の質問に対する理事者の答弁を求めます。白川市
長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） おはようございます。

本日は、平成29年壱岐市子ども議会的一般質問でございます。皆様方の御質問にわかりやす
いように、一生懸命答えてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

まず最初に、勝本中学校から大項目2つのことについて御質問がございました。

まず最初の質問、ふるさと納税についてでございますけれども、ふるさと納税につきましては、
この制度は平成20年度に始まっております。壱岐市の寄附額につきましては、平成27年度に
は1億円を超え、昨年度は1億4,180万円の御寄附をいただきました。また、ことしはさき
の50年に1度の豪雨ということの意味にも御寄附をいただいております、それを合わせます
と昨年の同時期と比べて約2倍の寄附の申し出をいただいているところでございます。

御質問の使い道につきましては、御指摘のとおり、3つのプロジェクトを中心に活用させてい

ただいております。

まず、1つ目の実りの島プロジェクトですが、これは産業の振興や文化財の保護、交流人口の拡大といった壱岐市に住んでいる人たちや壱岐市を訪れる人たちに実りをもたらすことに活用するプロジェクトで、昨年度は海水浴場や公園といった観光施設の整備や島内にある文化財の保護や看板の整備などに活用させていただきました。一つの例といたしましては、イルカパークの水質の調査に使わせていただきました。

2つ目のしまの未来を担う人材育成プロジェクトですが、これは少子化が進む中、子育て、教育の充実を図るとともに、未来を担う人材を育てるプロジェクトで、特徴的なものは、子ども夢プラン応援補助金として、壱岐市の子供たちが県代表や九州選抜に選出されるなど、島外へ遠征する費用などを支援するものです。昨年度はこの子ども夢プラン応援補助金のほか、各幼稚園や学校へAEDの設置、図書の購入などに活用させていただきました。

3つ目の安全・安心で充実したしま暮らしプロジェクトですが、これは人口減少や高齢化する中、移住・定住の促進、福祉・医療の充実、防災力の強化、住環境の整備など、市民の皆様が安全・安心で充実した暮らしができるよう環境の整備を図るとともに、さまざまなまちおこし活動を支援し、壱岐市の活性化を図るプロジェクトで、昨年度は、壱岐市でのイベント開催の費用や自治公民館の集会施設のバリアフリーに活用させていただきました。例を挙げますと、昨年、原の辻周辺を会場として行われましたねりんピックウォークラリーの経費の一部に充当させていただいております。

このように、ふるさと納税によっていただいた寄附金はさまざまな事業に幅広く活用させていただいております。今後も壱岐市が今まで以上に発展していけるよう、寄附金の使い道を工夫してまいります。

次に、ふるさと納税に対して、このプロジェクトをもっと市民にわかるように提示してはどうかという御提言であります。

まず、壱岐市ふるさと応援寄附金制度の目的は、税収を向上させるということはもちろんでございますけれども、それ以外に寄附してくださった方に返礼品として地元の地場産品を送ることから、地場産品の消費拡大や壱岐市の知名度の向上を図ることも大きな目的です。

寄附金の使途につきましては、壱岐市ホームページに掲載しておりますけれども、御指摘のように使い道の詳細をわかりやすく開示できていないと思っています。

壱岐市では、これまで以上に壱岐市に対し御声援をいただけるように寄附金の使途について議論を重ね、有効に活用してまいります。そのためには、御提案のように現在どのように活用しているのか、市民の方々にわかりやすく開示することがとても重要だと考えます。

ただし、このことで壱岐市の方々が他の自治体に寄附されるということになりますと壱岐市の

税金が減りますので、そうではなくて壱岐市民の皆様にも壱岐市ではふるさと納税を使ってこんなことをやっているんだ、こんなに役立っているんだということを市外にお住まいの御家族の方とか、友人の方に情報を発信していただけるように、まずは市民の皆様にもそのような開示をすることによって関心を持っていただくということは大変大事なことだと思っています。

また、使い道の内容も大変重要となりますので、今回のようなアイデアをたくさん出していただき、いいものはどんどん採用し、活用していきたいと考えています。

次に、具体的な提言の1番目でございますけれども、実りの島プロジェクトにつきましては、日本最古の歴史書、古事記での国生み神話を初め、神社、ほこらが大小合わせると1,000以上も島内に点在する、まさに神々の島といわれ、パワースポットもたくさんあります。中でも、月読神社や小島神社などはそのいわれや神秘性からパワースポットとして人気が高く、多くの観光客にお越しいただいています。

また、中国の歴史書、魏志倭人伝にも登場する原の辻は、静岡県の登呂遺跡、佐賀県の吉野ケ里遺跡とともに弥生時代の3大遺跡とされ、国宝に相当する国の特別史跡に指定されています。

このようなことから、平成27年4月には原の辻遺跡を初め内海湾古墳などを構成要素として対馬、五島とともに国境の島、古代からの架け橋として日本遺産第1号に認定をされております。

御提言の神社や古墳の整備についてですけれども、神社については政教分離ということがネックになっておりまして、思ったような事業ができないことも事実であります。しかしながら、関係者の理解を初め、課題がクリアされ、その事業の必要性や重要性が認められれば、ふるさと納税の実りの島プロジェクトの活用や事業内容を特定したガバメントクラウドファンディングを計画し実施することも可能であると考えております。

ふるさと応援基金に島の未来を担う人材育成プロジェクトということでございますけれども、まず農業従事者の確保のための施策については全国的に農業従事者の高齢化、後継者不足が問題になっています。壱岐市では、農業従事者確保対策として、国の農業次世代人材投資事業等の施策を最大限活用するとともに、単独事業として、壱岐新規農業者支援事業を実施しています。

漁業につきましては、壱岐市内には5つの漁協があります。29年3月末の5つの漁協に従事されている組合の数につきましては、正規組合員のうち29歳以下はわずか1.5%の14名、その一方で60歳以上は62.9%の591名となっております。高齢化、後継者不足が大変深刻であります。

このような中で持続的な漁業を確立するために後継者としては漁家の子弟、いわゆる子供さんが最もその育成にふさわしいということで、これらの単独事業につきまして、このふるさと納税の応援コースから資金を活用させていただきます。

また、農水産物の加工開発については、国、県の補助事業を活用していただき、市単独ではご

ございませんけれども、ことし8月から設置いたしました、ふるさと商社と連携をいたしまして新加工品の開発、雇用の拡大につなげていきたいと考えております。

3点目の安全・安心で充実したくらしプロジェクトについてですけれども、壱岐市では、防犯灯・街路灯合わせて市内1,239カ所に設置しています。防犯灯につきましては、自治公民館長からの申請に基づき、通学路や交通量の多い道路等に設置しています。なお、電気料金、電球の交換については設置している自治公民館の負担とさせていただいておりますので、今、新しくする場合はLED化を推進をいたしております。防犯灯はやはり町部以外では大変少なかったり、十分設置されていないことも考えられますので、通学路に利用されている道路などで暗い箇所や危険な箇所があれば、御家族の方から地域の自治公民館長さんに連絡していただきまして、館長さんから申請をしていただきたいと思いますと思っております。皆さんが、事件や事故に遭わないように安全対策に努めてまいりますので、御理解、御協力をお願いいたします。

次に、大きな問題の有人国境離島法でございますけれども、この法律は本当に壱岐が今から発展していくかどうかの本当に大きな法律でございます。この法律については、日本の国土面積は38万平方キロ、世界で第62位です。一方で、他の国の利用を制限できる海面、いわゆる排他的経済水域というのが447万平方キロあります。これは世界で第6位です。この両方を合わせますと、世界で第9位の国土を持っているというのが日本の現状であります。

そういった中で、そういったものに対して重要な役割を果たしている国境に面する島々の人口減少を抑えるということが最大の目的であります。

この目的について4つございまして、まず1つは航路・航空路運賃を下げる、物資の流通経費を下げる、3つ目に滞在型観光を推進する、4つ目に雇用機会、つまり職場をふやす、この4つが大きな柱であります。

1つ目の航路・航空路運賃を下げるということについては、実際に4月1日から航路・航空路運賃がそれぞれJRの在来線、特急並み、あるいは新幹線並みに引き下げられました。

また、壱岐市ふるさと商社につきましては、壱岐のすぐれた地域特産品を掘り起こしまして、首都圏や福岡都市圏など大消費地に宣伝及び売り込みを行うために、これから営業活動やマーケティングを実施し、取扱商品の数をふやして販路拡大を図っていく。これは主として壱岐市のすぐれた農水産物、つまり一次産業と六次産業を支援をしていくというのが大きな目的となっております。

これ以外の取り組みといたしましては、冒頭申し上げましたように農水産物の海上輸送費に対する支援や日帰り観光客には1泊を、1泊の予定の人には2泊をとということで、もう1泊してもらおう、そういった観光の推進、そしてまた、最も力を入れておりますのが働く場所の拡大であります。雇用を伴う仕事を新たに始めるかた、事業を拡大して雇う方をふやしていただく方につい

て支援を行っています。

現在の申し込みでは、壱岐市内で24の事業所で85名の新しい雇用が生まれています。さらに、これからもいろんな相談が来ておりますので、これからも壱岐の雇用がふえると期待が持てます。皆さん方も壱岐に残って就職する、あるいは島外に出て将来帰ってくる、そういったときに壱岐には仕事があるんだという、そういう環境をぜひつくりたいと思っているところであります。

それから、今、離島民だけが運賃が安いわけでございますけれども、これを全ての人にということのお考えですけれども、これは島民皆さんがそう思っているらっしゃると思います。全ての人がJR並み運賃で船に乗る、飛行機に乗る、そういったことにしてほしい。これは間違いなく私もそう強く思っております。

ただ、これには今、この国境離島法ができて、約100億円の予算があります。ところで、この全ての人に運賃を下げるとなると、それよりほかに60億円要るといわれています。ですから、なかなか国もうんと言ってくれません。そこで、皆さん方にぜひ理解していただきたいのは、この国境離島の予算は全てが国が持つわけではなくて、国が55%、県が22.5%、市が22.5%です。ですから、例えば1億円要ったとすると市も2,250万円出さなければいけない。今もちろん市が出しているんですけども、そういったときに、じゃあ島外から来る人にも壱岐市民の皆さんの税金を使っていいのかという、そういった意見を持っていらっしゃる方もあるかもしれません。しかし、私は壱岐市の活性化を図るためには、これはぜひとも全ての人にその今の壱岐の人が受けている恩恵を受けさせて、そして壱岐の活性化を図りたいと思っているところであります。

今後、この国境離島に該当する島は71ありますけれども、その71の島の方々と力をあわせて、この運賃の低廉化、運賃を島民並みにみんな下げてくださいということを国に対して一生懸命働きかけていくということをお約束して答弁を終わります。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（小金丸益明君） それでは、再質問はありませんか。1番、下條議員。

○議員（勝本中学校） 子ども議会が始まってことしで4年になります。これまで各学校からいろいろな提言が出されてきたと思いますが、実際に市として始めたことや参考になったことはありますか。

○議長（小金丸益明君） ただいまの再質問に対する理事者の答弁を求めます。質問時間がオーバーしておりますので、理事者の答弁は簡潔に急いでお願いします。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 何件かあったのですが、ここでちょっとど忘れいたしております。

この議会の終わる前に、この本日中に皆さん方に今からどんなことがあったということを調査して、すぐお答えをいたします。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（小金丸益明君） ほかにありませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小金丸益明君） 以上をもって勝本中学校の一般質問を終わります。

〔下條 理喜議員、土肥ちひろ議員、大久保都羽議員、川上 陽子議員 一般質問席 降壇〕

.....

○議長（小金丸益明君） 次に、芦辺中学校、5番、長元愛奈議員、6番、安永龍生議員、11番、日高大地議員、12番、長島愛莉議員の登壇をお願いいたします。

〔長元 愛奈議員、安永 龍生議員、日高 大地議員、長島 愛莉議員 一般質問席 登壇〕

○議員（芦辺中学校） 通告に従いまして、芦辺中学校が一般質問を行います。

私たちは、イベント・ボランティア活動による地域活性化について考えました。壱岐市では、年間を通じてさまざまなイベントが開催され、島内外を問わず、多くの参加者があります。その中でも、豊かな自然を生かしたスポーツ関係のイベントは、壱岐市の魅力の一つです。新春マラソン大会やサイクルフェスタなどの大きなイベントは、壱岐の魅力を最大限に生かし、参加者を通じて島のよさを島外に発信できる重要な機会だと思います。

壱岐市では、イベントによる観光客、参加者の誘致で、地域の活性化を狙いとされていると思います。そこで、以下の2点について質問と提言を行います。

1つ目です。各種イベントでどのような内容のものが最も島外の参加者数が多いのでしょうか。

2つ目です。イベントのリピーター率はどのくらいあるのでしょうか。

続いて、提言を行います。

壱岐の魅力である豊かな自然とおいしい食材をどのように生かすかが、地域の活性化の鍵であると考えています。そこでまず、おいしい食材、食の魅力という点からの提言です。

1つ目です。全国各地で安くておいしい料理コンテストであるB級グルメが人気となり、多くの集客ができるイベントになっています。壱岐は、ウニを初めとした海鮮やメロン、壱岐牛など、高級食材の宝庫です。そこで、これら的高级食材を使ったA級グルメのイベントを行い、島外からの観光客を呼び寄せてはどうでしょうか。

また、飲食店をめぐるスタンプラリーをつくり、全てのスタンプを集めた人に貝殻や勾玉でつくったストラップなどの景品をプレゼントするといった方法も考えられると思います。

もちろんA級グルメを開発するには食材の確保が必要で、収穫が自然状況に左右される魚介類、農作物を安定して供給できるシステムや工夫が必要になります。それがうまくいけば、農業や漁

業の活性化にもつながり、地域の経済も安定すると思うし、農業・漁業に従事する人、若者がふえてくるのではないのでしょうか。

次に、壱岐の自然を満喫しようという点からの提案です。

現在、壱岐には、美しいビーチで開催されるビーチフラッグのイベントがありますが、海の恵みを堪能できるイベントを行ってはどうでしょうか。

釣りになじみのない人でも簡単に釣りを楽しめるように、地元の漁師さんと提携して船を貸し切る船釣りを行う等です。釣った魚は旅館で料理して提供すれば、釣りのおもしろさだけでなく、海の幸を堪能し、達成感を味わうことができます。釣り具は店からレンタルし、手軽に海のおもしろさを体験できるような企画をすれば、リピーターをふやすことができるのではないかと考えます。また、漁師さん、飲食店、釣具店の収益につながる可能性があります。

昨年10月に開催された壱岐ウルトラマラソンは、島の宝である豊かな自然とおいしい食材がある壱岐市を1人でも多くの人に知ってもらえるイベントの一つで、ことしも開催が予定されていると聞いています。

本校では、壱岐ウルトラマラソンに多数の生徒がボランティアとして参加しました。ランナーへの給水を行いました。このボランティアがランナーへの手助けになることはもちろん、イベントの成功にも大きくかかわることを肌で感じ、とても貴重な体験となりました。

芦辺中学校では、生徒会を中心に校内ボランティア活動を行っています。この活動は、先輩方がさらによい学校を目指したいという意思で始まりました。地元の中学生として、壱岐市の発展のためにできるボランティア活動があれば、協力していきたいと思えます。

以上のことを芦辺中学校の質問と提言とします。

○議長（小金丸益明君） 芦辺中学校の質問に対する理事者の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 芦辺中学校の御質問にお答えいたします。

イベント・ボランティア活動による地域活性化についての御質問と提言であります。

現在、島外から多くの参加があるイベントといたしましては、壱岐島で継続的に実施をされている壱岐サイクルフェスティバル、壱岐の島新春マラソン、そして昨年からはじめております壱岐ウルトラマラソンが大きな島外からの多くの参加があるイベントであります。

まず、本年6月開催の壱岐サイクルフェスティバルは全体参加者数が703名、島外参加者数が674名でありまして、島外のリピート率は6割程度となっております。

次に、壱岐の島新春マラソンについてですが、全体参加者数が1,979名、うち島外参加者は478名、島外のリピート率は5割程度であります。

サイクルフェスティバルにつきましては、本土に競技人口が相当程度おり、かつロードレース

の開催地が全国的に少ないこと、これはなかなかサイクル競技するときに全ての道路を交通規制、いわゆる通行止めしてやれるところは余りないそうです。壱岐は島内を全部通行止めしてやる。そういった、本当に会場に恵まれているということがあります。それに壱岐の島を1つのレースで1周できる。そういったことが魅力となっておりまして、リピーターをふやしている要因かと思っています。

サイクルフェスティバル、新春マラソンともに5割から6割のリピート率について、島の魅力あるイベントとして定着をしていると思っています。

昨年10月に開催された壱岐ウルトラマラソンでは、多くの中学生の皆様ボランティアとして給水所業務等の運営に協力していただきまして本当にありがとうございました。ランナーの方々は地元の学生さんたちの応援、頑張りがとても力になったという感想をたくさんいただきました。ことしも大会の成功に向けて取り組んでまいりますので、中学生の皆様の御協力をお願いを申し上げます。

ことしの壱岐ウルトラマラソン参加人数については、8月14日現在、100キロメートルでは356名、50キロでは196名、55.2名の応募をいただいておりますけれども、去年の数字に到達していません。現在も参加者数をふやす取り組みをしているところであります。その応募締め切りが今月末日となっておりますので、あいにく、島外参加者のその把握と昨年参加者とことし参加者との照合が終わっておりませんので、リピート率というのがウルトラマラソンでは今わからないというところであります。

昨年度のデータで申し上げますと、大会参加者の635名のうち、島外参加者数は575名となっております。参加者の9割が島外の方ということでございまして、ウルトラマラソンは島外の方の参加が非常に多いと思っていますところであります。

壱岐ウルトラマラソンが参考にしております島根県隠岐の島の隠岐のウルトラマラソンを参考にいたしますと、ここではリピート率が65%ということで、ここも高いリピート率となっております。リピーターが多く集まる理由の一つに、市民総出のおもてなしが大変素晴らしいことが挙げられています。

先ほども申し上げたように、壱岐の島を挙げたおもてなしがすばらしかったとの感想を昨年の第1回大会でいただいておりますので、第2回大会は昨年を超える反響をいただけるように市民のみなさまの御協力をお願いしたいと思っております。

次に、壱岐の魅力である豊かな自然とおいしい食材をどのように生かすかが地域の活性化の鍵であると考えられるということでもあります。

B1グランプリはご当地グルメでまちおこしの祭典として全国から多くの来場者が集うイベントとなっております。まさにまちおこしのイベントであると認識をしています。本市は玄界灘

の宝石箱、あるいは実りの島として島外に発信しておりますとおり、おいしい食、グルメが豊富にあり、この食、グルメを求めて来島される観光客も数多くいらっしゃいます。

本市で開催しておりますサイクルフェスティバルや新春マラソン、ウルトラマラソンのイベントの折には、ひきとおしなどの壱岐の郷土料理を提供し、大変好評をいただいています。

また、壱岐市商工会による壱岐国バルフェスタは市内の飲食店を周遊できる企画として壱岐の自慢の食、人が楽しめるイベントとなっています。御提案のA級グルメによるイベント、スタンプラリーはこのようなイベントと連携してするというのも1つの方法かと考えています。

本年8月1日には、壱岐市ふるさと商社を立ち上げ、壱岐の本当においしいものを島外に売り込み、生産者、事業者の所得向上による雇用の場の創出、地域活性化を目指しています。今後とも、壱岐のすばらしい食の魅力を多くの皆様に情報発信してまいります。

また、魚介類、農産物を安定して供給できるシステム、工夫がないとなかなかこういったグラプリも厳しいんじゃないかという御提言でございます。

ことしの全国的な異常気象、皆さんもテレビ等でトマトが全部だめになったとか、ナスが全部だめになったとかいうニュースをお聞きになっているかと思います。このように農業、漁業は直に自然と向き合うとともに自然に大きく左右される産業であります。一方では自然からの恩恵も大きく受ける産業であります。現在、少しでもこのように自然状況に左右されない取り組みとして、漁業では養殖での魚介類の生産、農業ではハウスでの農産物の生産が行われています。

御提案の農水産物を安定して供給できるシステムや工夫については全国的には強固な建物の中で野菜をつくる、そういったこともなされていますけれども、これはやはり季節感が全くないというそういったこともございます。やはり、壱岐では壱岐の本当に季節感を感じられる自慢の農産物を出さなければいけないと思っているところであります。

A級グルメを開発するための食材であれば、本市の豊かな自然や特徴を生かした農水産物の活用をぜひおすすめしたいと思っています。そのためには、農漁業者の皆様、そして農協、漁協と十分な協議を行い安定供給に向けたシステムをどうしたらつくれるのか、またグルメの商品開発についても事業者との綿密な協議と連携が必要であります。

御提案のとおり、農漁業が活性化することによって地域経済の安定が図られ、農漁業従事者が増加することにつながりますので、今後とも農漁業に対してあらゆる支援と協議を重ねていくつもりであります。

また、ビーチフラッグ等でございますけれども、壱岐市におけるビーチフラッグのイベントは、壱岐市商工会青年部芦辺支部主催の夏夢祭事業のプログラムの一つとして実施されているものだけであるようであります。ビーチフラッグのみでの大会やイベントとして開催されているものはないようです。

そのほか、ビーチでのイベントとしてはことしで第19回目を迎えたビーチフェスティバルがあります。ビーチバレーのイベントとなっておりますけれども、ことしは8月20日に開催されておりまして、16チームの参加がありました。うち、島外からの参加が10チームとなっております。このビーチフェスティバルも壱岐の夏のイベントとして定着しているところです。現在、壱岐市内の民宿や体験事業者等においては、釣り体験を実施し釣った魚で調理体験やまた刺身や天ぷらとして提供を行っております。道具も貸し出しをしております、壱岐の体験メニューの中で特に人気が高く、リピーターも多いと伺っております。また、修学旅行にも同様の体験を実施していただき、生徒はもとより先生方からも大変よい経験となる。好評をいただいております。今後も壱岐の体験型観光の目玉として期待をしています。

また、次に漁業についてでございますけれども、本市の基幹産業である漁業を取り巻く環境は漁業就業者の減少、高齢化、生産コストの高騰など、依然として厳しい状況にあります。また、水産資源の減少や漁場環境の悪化による全国的なスルメイカの不漁、クロマグロの自然回復のための漁獲制限など、漁業経営に深刻な影響を与えています。

このような状況の中にあつて、漁業者も漁獲の減少に対応するため経営の多角化を目指して、遊漁船の登録を行い、船釣りや瀬渡しなど漁業に関連した開業として取り組んでおられ方もおられます。普通の一般の漁船は、皆様乗れないんです。遊漁船という免許をとらないと魚釣りをしはけないというふうになっています。しかし、そういうことを既に取り組んでいられる方もいらっしゃいます。また、旅館などと提携して釣った魚を料理して提供する計画を進められている方もおられると聞いております。事業者もリピーターをふやすための努力を行っております。気軽に釣りを楽しんでもらうことによって、漁業に興味を持ってもらい、また自分が釣った魚を食べることによって魚離れが少しでも解消できれば、漁業振興につながると期待されておりますので、関係団体と協議して研究をしていきたいと思っております。

芦辺中学校の皆さんには、このボランティアに対する意識が非常に高く、いろんなことについてボランティアに取り組むという、今そういう意思の表明をしていただきました。本当にそういったボランティアの精神というのは大事でございます、ひとつその気持ちを忘れずに、今後ともいろんなボランティアに取り組んでいただきたいと思っております。ありがとうございます。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（小金丸益明君） それでは、再質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小金丸益明君） ありませんね。

以上をもって芦辺中学校の一般質問を終わります。

〔長元 愛奈議員、安永 龍生議員、日高 大地議員、長島 愛莉議員 一般質問席 降壇〕

○議長（小金丸益明君） ここで暫時休憩いたします。再開を10時25分といたします。

午前10時18分休憩

.....

午前10時25分再開

○議長（小金丸益明君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、石田中学校、7番、長島来希議員、市村涉真議員、平田萌々香議員、松永彩花議員の登壇をお願いいたします。

〔長島 来希議員、市村 涉真議員、平田萌々香議員、松永 彩花議員 一般質問席 登壇〕

○議員（石田中学校） 通告に従いまして、壱岐市立石田中学校が一般質問を行います。

石田中学校では、毎年、社会福祉協議会でのサマーボランティアや工芸や昔の遊びを学べるいわたぬ広場という催し物などのボランティア活動を通して、小さい子供からお年寄りまでさまざまな地域の方々と交流しています。また、年末には、ひとり暮らしのお年寄りに年賀状を送る取り組みを生徒全員で行っています。

このような活動をしていく中で、地域の方々が健康で元気に過ごせる町になってほしいと思いました。そのためには、壱岐市の医療充実が大切であると考えます。活動を通して地域の方々と会話をする中で、私たちを含めて多くの人が、島内だけでなく島外の病院で治療を受けた経験があることに気づきました。

そこで、市民の皆さんが島内の医療をどのように感じているのかを知り、その課題を解消することができれば、壱岐市の医療がより充実し、さらに安心して暮らせる島になると思いました。

そのために、私たち石田中学校では、保護者の皆様を対象にアンケートを実施しました。横に示している資料がそのアンケートの内容です。全部で88世帯から回答をいただいたので、その結果をもとに3点質問をさせていただきます。

1点目は、子供からお年寄りまでが安心して利用できる島内医療の整備についてです。壱岐市内の病院には幾つもの診療科があり、幅広い治療が受けられます。例えば壱岐病院には16の診療科があります。しかし、横に示したグラフのように、「あなたが島内の病院受診するときに困ったことや不安に感じたことについて教えてください」という質問で、50%が「自分の受診したい診療科がない、または、あるが病院が限られている」と答えています。このことから、医療体制が整っていても、住民はそのように感じていない現状があると考えます。そこで、壱岐市としてどのように改善しようとしているのか教えていただきたいです。

私たちの考えとして、市民が安心して医療を受けられるようにするために、市と病院が連携をとり、受診したい診療科が壱岐のどの病院にあるのかや診察を行っている日時がいつであるかを

教えてくれる医療情報窓口をつくってはどうか。

横の資料は「島内でできたらいいなと思う治療があれば教えてください」という質問の結果です。この中には脳神経外科や膠原病治療など、赤い枠で囲まれているもののように、現在、壱岐の病院で治療が可能なものが挙げられていました。このことから市民が望む治療ができる医療体制が整っているものの、それが余り知られていないということがわかります。

そこで、医療に関する情報をより簡単に知ることができれば、受たい治療を島内で受けることができると思います。また、人口10万人当たりの診療所数を考えたときに、診療科目別で見ると、外科や小児科は全国平均を上回っていますが、産婦人科や皮膚科、眼科などは全国平均を下回っています。

そこで、専門的な診療所の数をふやしたり、受診できる日時をふやしたりすることにより、今まで島外に出ていた人も、島内で治療できるようになるのではないかと考えます。

また、アンケートには、島外から来られた医師の滞在期間が短く、主治医が変わるという意見がありました。そこで、島外から来られた医師が長期滞在できるようにすれば、継続して同じ主治医にかかることができ、安心して島内の病院を利用できると考えます。

以上のことを1つ目の質問と提言とします。

2点目は、ドクターヘリ等、緊急時の医療体制の整備についてです。

横に示したアンケートの「あなたが島内の病院を受診するときに困ったことや不安に感じたことについて教えてください」という質問で、55%が「緊急を要する病気やケガのとき島内で治療できるか気になる」と答えています。平成28年度は、壱岐市によるドクターヘリの要請が28回あり、大村市の国立医療センターを中心に搬送されています。このように島内の病院と島外の病院が連携をとり、緊急時にも迅速な対応をされています。しかし、場合によっては、島外に搬送することができないことがあると思います。例えば、悪天候等でドクターヘリによる搬送が困難な場合、どのような対応がされるのかを教えてくださいたいです。

壱岐市以外での出動や悪天候のため、緊急時にドクターヘリを要請できない場合も考えられます。そこで、ドクターヘリの台数をふやすことにより、壱岐市だけでなくほかの地域でも緊急時にスピーディーな治療を受けることができるのではないかと考えます。

また、壱岐から島外に搬送するとなると、国立医療センターまで片道で35分ほどかかります。同じ治療でも、壱岐島内で行うことができれば、搬送までの時間が短縮されたり、入院後の負担が軽減されたりすると思います。

しかし、人口10万人当たりの医師数を考えたときに、全国平均は246人ですが、壱岐市は159人と不足しています。アンケートの中にも、専門医の数が少ないという意見がありました。そこで、島内の医療設備を充実させるとともに、壱岐市内の常勤の専門医の数をふやすことによ

り、緊急の場合でも島内で対応できることがふえるのではないかと考えます。

以上のことを2つ目の質問と提言とします。

3点目は、壱岐市福祉医療の支給についてです。壱岐市福祉医療の支給に関する条例の一部改正によって、私たち中学生も医療費が負担されるということを聞きました。この制度について詳しく教えていただきたいです。

以上を石田中学校の質問と提言とします。

○議長（小金丸益明君） 石田中学校の質問に対する理事者の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 石田中学校の質問と御提言にお答えいたします。

この医療についての質問でございますけれども、石田中学校の御質問は、その柱が壱岐市に医療をする科目があるのに皆さん知らないんだ、ぜひ壱岐の医療の体制を知ってもらって、そして壱岐で受診すれば負担軽減にもなる、ぜひそういった努力を市は怠っているんじゃないかという御質問だと認識をいたしました。

本当に積極的に壱岐の医療について考えていただいていることに感謝をいたします。

現在、壱岐市内には医師会の先生方の御尽力によりまして、5つの病院と14の診療所・クリニックがありまして、市民の皆様の健康と命を守っていただいております、県内の離島の中では診療体制においては比較的恵まれておりまして、多くの診療科目で診察がされている状況であります。

壱岐で一番病床数が多く、救急告示病院、がん診療、離島中核病院などいろいろな役割を果たしている病院企業団、壱岐病院についてお話をいたしますと、壱岐病院では17の診療科目があります。常勤の医師は14名、このほかに非常勤の先生もたくさんいらっしゃいまして、この非常勤の先生を常勤換算いたしますと7人になります。ですから、14名の常勤医師でございますけれども、換算をいたしますと21名の常勤医師がいる病院だとそういうふうに捉えていいかと思っております。

また、壱岐病院は研修医も多く受け入れておりまして、短期間でありますけれども、昨年の場合、年間22名の研修医の受け入れも行っているところであります。

しかしながら、常勤医師のいない診療科についてもできる限り医師の常勤化の要望を行っておりますけれども、やはり皆さんも御存じのように医師不足といいますか、特に離島とか、生活が非常に厳しいところについてはなかなか医師の方が来てくれないという現状がございます。大学の医局も医局員が少ないとの理由から厳しい状況のようでございます。

しかしながら、引き続き医師の招聘ができるよう、壱岐病院を運営する病院企業団、あるいは医師会とも協力をして努力していきたいと思っております。

また、壱岐市におきましては、24時間365日可能な在宅医療構築に向けた整備を進めるための壱岐医師会を中心に官民一体となって取り組む在宅医療推進部会を設置をさせていただいております。

具体的には、医療ネットワークあじさいネットというのがあります。ICTのいわゆるあじさいネットでございますけれども、病院、診療所、介護施設、さらには薬局が患者カルテ、投薬等のデータの供用を可能とするためのネットワークが図られています。高齢となっても可能な限り、住みなれた地域でその能力に応じ、自立した日常生活を営むことを可能にしていくためには、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムを実情に応じて構築していくことが必要で、その重要なツールとなっております。

地域包括ケアの体制整備につきましては、医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供されるようにさまざまな取り組みを行っているところでありまして、今後も医療体制の充実も含め、医師会を初めとする関係機関と連携を図りながら、市民の皆様が安心・安全を感じられるようなまちづくりを目指して取り組んでまいります。

このような壱岐病院の医療体制や壱岐市医師会の取り組みを市民の皆様には十分な周知がなされていないことがアンケートの不安があるとの結果につながっているものと思っています。

先月には、壱岐病院の向原院長に壱岐市ケーブルテレビの「ようこそ市長室へ」に御出演をいただきまして、病院の現状、医療の現状等についてお話しいただいたところでございますけれども、市報への掲載や医療資源マップの各戸配布など、今後もさまざまな機会を通じて壱岐医師会と連携をして情報を広く市民に伝えていかなければならないと思っております。

今、石田中学校のアンケートの結果からも市民への十分な周知がないということも判明しておりますので、現在、本市において一般質問で申し上げました、地域包括ケアの構築の取り組みの中で壱岐保健所が中心となって医療、介護環境のための壱岐在宅医療資源マップを作成しております。今後は、この資源マップを活用して市民向けの新たな医療資源マップを作成して各戸配布や市内、医療機関を初めとする関係機関窓口への配布、さらには情報提供窓口への設置を検討してまいりたいと考えております。

失礼しました、これは提言に対するお答えでございます。

次に、産婦人科や皮膚科、眼科などの特定診療科目についてでございますけれども、長崎県においては、毎年離島・へき地医療対策に関する連絡会議が開催されておりまして、離島やへき地、支援医療センターの活動の中で常勤医師、来診医等の派遣斡旋や医師募集、さらには平成28年度からは特定診療科目の外来受診のための日帰り診療応援システム事業が実施されております。

島外から来られた医師の長期滞在という御提案もございました。これについては、長期にわたる医師の派遣については、派遣元の大学医局の都合もありまして、その派遣期間についてなかなか

か調整が難しくてもどうしても短期間で派遣が終わられるということがございます。

今後、一つの対策といたしましては、先ほど申しましたが、あじさいネットの活用によりまして、そのお医者さんが大学とかにお帰りになっても、その患者さんに御同意がいただけるならば長崎県内の二次医療圏、さらには将来、福岡市の三次医療圏、いわゆる大学とか医療センターとかでありますけれども、ネットワークも視野に入れております。診療内容や画像、動画等がリアルタイムに確認できることとなっております、いわゆる遠隔医療の実現を視野に入れた医療体制をつくるという方向で今進んでいるところであります、このことが実現されることとなりますので、今後、体制整備に向けて壱岐市としても支援してまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、御提言のように壱岐市の医療の実情を市民の皆様詳しくお知らせする。このことを早期に壱岐病院、医師会等とも相談して取り組んでいきたいと思っております。

2番目のドクターヘリの状況についてでございますけれども、離島である本市につきましては、緊急を要する病気やケガで島内医療機関で処置や治療ができない場合、患者の命を守るために島外の医療機関と連携することが不可欠であります。

現在、壱岐市においては、壱岐病院の調べでは、平成28年度緊急搬送実績は79件で、長崎県内の医療機関への搬送は26件、福岡県の医療機関への搬送は53件となっております。市内民間病院からの緊急搬送も数十件このほかにあるようであります。長崎県内への搬送は海上自衛隊ヘリや長崎県防災ヘリによるもので、福岡県内への搬送は福岡市内の病院が所有するヘリコプターやドクターヘリ、そしてジェットフォイルなどが主となっております。

御質問の悪天候などでドクターヘリによる搬送が困難となった場合の対応でございますけれども、平成28年度の実績で自衛隊ヘリが飛行不能によって別手段になって対応した件数が5件あります。内訳は高速船への変更が3件、海上保安庁ヘリへの変更が1件、海上保安庁の巡視艇への変更が1件であります。関係機関が連携して迅速な対応がされておるところであります。

また、平成29年度においても1件のヘリコプターの飛行不能がっておりますけれども、壱岐病院の外科医師による緊急手術を壱岐病院ですべて事なきを得たという実績もあります。

このように本市におきましては、離島というハンディキャップを背負っている実情から緊急時における島外医療機関との連携は必要不可欠でありまして、関係自治体やヘリ運航機関、受け入れ医療機関等関係団体と協議を重ねて連携して迅速に対応し、今後も市民の方々の健康と命を守っていきたくと考えております。

提言でございますけれども、ドクターヘリの台数をふやしてはどうかという提言であります。この問題については壱岐市だけではなくて広域的な対応が必要であります。また、県や運航委託会社、基地、医療施設などとの協議も必要です。緊急を要する患者の命を守るためには専門医のいる設備の整った病院に搬送することがもちろん大事であります。しかしながら、この御指摘の

ように病院に運ぶとなると、片道35分でも迎えに来てもらわないかんわけですから、その倍かかるわけです。70分か、連絡をしてから。そしてまた病院に行くまで相当な時間がかかる。そういったことがあります。

実は、今、救命率を上げるのはどうしたらいいかという、2時間以内に一次処置、いわゆる応急手当ができる、そのことが一番救命率が高いそうです。ですから、その緊急な状態のときに一次処置をする、そして、その後、その患者がどこが一番いい病院なのかということ判断してそこに送る、そういったことが一番救命率が高くなるということでございますから、そういった病院を今、壱岐病院は目指しているという状況にあります。

現在でも、そういった中で画像を、いわゆるCT、MRIなどを今から送ろうとする病院に早く早く送って、そしてあるいは一次処置をする適切な判断をいただく、そういったことも現在、実際あじさいネットで活用しているというところでもあります。このようなことを推進していくことが、御指摘の負担軽減にもつながると思っているところでもあります。

島内医療設備の充実と常勤専門医の雇用についてでありますけれども、常勤専門医の雇用については、壱岐市の中核病院である壱岐病院において、平成27年4月の長崎県病院企業団加入によりまして、麻酔科医などの常勤雇用や腎臓専門医の雇用などが相次いで実現いたしました。医療体制の充実が図られております。

御参考でございますけれども、現在、14名の常勤医師と申し上げましたけれども、長崎県病院企業団に加入をする前の平成24年度においては、常勤医師は壱岐市民病院には8名しかいませんでした。そういった本当に危機的な状況にもありましたけれども、そのころと比べますと、今はかなり改善をされました。しかしながら、十分ではありませんので、今後も壱岐市といたしましては御提言をいただいた事項を参考として、その実現と地域包括ケアの構築など総合的な市民の皆さんの医療、介護、福祉等々につなげてまいりたいと思っております。

そのためには、やはり壱岐医師会、壱岐病院を初めとする関係機関との連携強化が必要になります。そのことをしっかりと私ももう一度自分自身再認識をして取り組んでまいりたいと思っております。

3番目の福祉医療の支給についてでございますけれども、平成28年度まではこの福祉医療、小学校に入学前までのお子様に対象としていました。乳幼児福祉医療制度というのがあったわけですが、平成29年4月から中学校卒業するまでに受診した場合、子ども福祉医療制度の対象としたところであります。

皆さんが通常、病院や薬局などの医療機関を受診すると総医療費の3割を窓口で負担しなければいけません。この3割は一度は支払っていただくことが必要でございますけれども、結果的に後で申請をすることによって返ってくるわけでございますが、1日について800円が自己負担

になります。2日というとなら、1,600円ですけれども、1つの医療機関でありますとそれが限度です。ですから、1カ月に例えば30日丸々入院をする、それでもいわゆる800円の2日分、1,600円で大丈夫だと、そういうのがこの福祉医療の制度であります。

ただし、これは1つの病院ですから、例えば15日間ある病院で入院をする。すると1,600円要ります。次に、15日間、他の病院に転院する、そうするとやっぱり1,600円要る。そういうことは理解をしていただきたいと思っております。

月末までの請求をなさいますと、その払った分の800円、あるいは1,600円を差し引いた残りがその次の月の20日までには口座に振り込まれるというシステムであります。

石田中学校の御提言の医療の充実、そして皆さんに対する周知、そういったものについて努力をしております。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（小金丸益明君） 再質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小金丸益明君） 以上をもって石田中学校の一般質問を終わります。

〔長島 来希議員、市村 渉真議員、平田萌々香議員、松永 彩花議員 一般質問席 降壇〕

.....

○議長（小金丸益明君） 次に、郷ノ浦中学校、9番、加藤仁一郎議員、10番、黒木向日葵議員、15番、吉田香友葵議員、16番、日高綾祐議員の登壇をお願いします。

〔加藤仁一郎議員、黒木向日葵議員、吉田香友葵議員、日高 綾祐議員 一般質問席 登壇〕

○議員（郷ノ浦中学校） 通告に従いまして、壱岐市立郷ノ浦中学校が一般質問を行います。

まず、子育て支援の活動について質問です。壱岐市では、どのような子育て支援の活動を行っているのか教えてください。

次に、壱岐市にある子育て支援を行う施設の数について質問です。壱岐市には子育て支援を行う場所が幾つあるでしょうか。

スクリーンを見てください。私たちが通っている郷ノ浦中学校の近くにある壱岐こどもセンターは、交流の場の提供や講座の開設などさまざまな事業を行っているそうです。ただ、建物の外観からはどのような施設なのかわかりにくく、私たちはお話をお聞きするまで知らなかったこともたくさんありました。私たちと同じように、建物の外観だけではわかりにくい部分もあり、利用していない人もいるのではないかと思います。壱岐市内には、壱岐こどもセンター以外にどのような施設があるのか教えてください。

最後に、子供が遊ぶ施設について質問です。壱岐市には公園が少なく、1日を通して親子で遊べる場所がありません。今後、子どもが遊ぶ施設をふやす予定はあるのでしょうか。

以上、3つの質問です。

現在、壱岐市の合計特殊出生率は2.14で全国9位ですが、出生率は低く、壱岐の人口の減少がとまりません。そこで、子育て支援を充実させることにより少しでも人口減少に歯どめをかけることができるのではないかと考え、次の3点について提言します。

提言1、島外と連携し優れている部分を取り入れてはどうでしょうか。

壱岐は医療機関は公園、施設の不足など、本土に比べて子育てがしにくい状態だと思います。そこで、島外と連携し子育て支援を行ってはどうでしょうか。例えば、福岡市の子育て支援について調べてみると、子ども医療の支援体制や子育てサークルの情報発信などに力を入れていることがわかりました。

また、佐世保市では、昨年度から市民の皆さんに夢のある子育て支援アイデアを募り、実現させるというプロジェクトが始まったようです。そういった子育て支援について特別な取り組みをしている都市と意見交換を行います。ですが、全ての優れている部分を取り入れることは難しいと思うので、その政策が壱岐市にあったらどうなのかを保護者の皆さんにアンケートなどを行い、調査して、よい結果が見込めそうであれば実行に移すと、市民の理解も得ることができ、すごくスムーズに支援が進むと思います。また、壱岐市でも、いき☆いっぽ広場といった第1子の子育て支援に力を入れた取り組みをしているので、そういった壱岐市ならではの子育て支援も島外に提供してみるとお互いに充実した取り組みになると考えます。

提言2、子育てする親に向けての教室、講習会を開いてみてはどうでしょうか。

赤ちゃんを授かった人の中には、初めて子育てをする親もいると思います。初めて子育てを始める親はどうしたらいいかわからないと思うし、心配な気持ちや不安な思いを少なからず抱えていると思います。だからこそ、子育てについて、教室や講習会で少しでも詳しく知ることができたら、親も安心して子育てに専念できるのではないかと考えます。また、子育てが初めてではない人も教室、講習会に参加することで、親同士のつながりも深まり、子育てに対する悩みを共有でき、子育てをしやすくなると思います。そして、多くの人とのかかわりの中で成長していくことが子供たちの感性を磨き、豊かな心を育むことにつながるのではないかと考えます。

また、私たちはお子さんがいらっしゃる先生方に子育てについてのアンケート調査を行いました。よかった点として、「学童保育がある」、「ちびっこ相撲などの子供イベントがある」といった回答がでました。その反面、困った点として、「子供用品店が少ない」、「遊ぶところが少ない」といった回答が多くでました。

その回答を踏まえて、さらに、教室の中で子育てに必要な物資の貸し出しを行うことを提案します。子供が大きくなって使わなくなったベビー服、玩具、ベビーカーなどを捨てるのではなく、新しく子育てを始める親に譲ったり、貸し出したりしてリユースを行うと、環境面においても金

銭面においても、すごく役に立つと考えました。壱岐は子供用品点が少ないため、この取り組みを活用する人は多くなるだろうと推測されます。

事前に先生方に壱岐市で子育てをして思ったことについてアンケートを行いました。その結果、「遊ぶところが少ない」や「公園が少ない」という意見がありました。これらのことを改善するために、次のことを提言します。

提言3、地域の施設を利用して、中学生が小さい子供の面倒を見る仕組みをつくってはどうか。

壱岐は公園などがないわけではありませんが、島外と比べて大規模なものが全くなく、子供が遊ぶ施設が少ないといえます。そこで、学校の統廃合のために使われなくなった校舎を活用して子育て支援を行うことを提案します。この支援を行うのは私たち中学生です。私たちは出身小学校の地域を担当し、地域の使われなくなった中学校で小さい子供の面倒を見ます。例えば、初山小学校出身の中学生は、旧初山中学校で子供の面倒を見るということです。期間は夏休みなど長期休みや部活動のない日を考えています。このような取り組みを実施することで、まず子供たちは家の近くで遊ぶことができます。また、親の自由な時間もふえて、遊ぶ施設が少ない問題も少しは解決できると思います。そして私たち中学生が子供たちと触れ合うことで地域とのかかわりやつながりが深まると考えます。

以上の3つを郷ノ浦中学校の提言といたします。

○議長（小金丸益明君） 郷ノ浦中学校の質問に対する理事者の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 郷ノ浦中学校から子育て支援について、御質問と御提言をいただきました。

壱岐市では、さまざまな子育て支援を行っておりますけれども、まず経済的な支援がございます。それには、出産祝金、これは第2子からです。それから、未熟児養育医療、育成医療、乳幼児福祉医療、子ども福祉医療、それから児童手当、児童扶養手当支給など、そういった経済的な支援をまず行っています。

次に、いろいろな事業の支援として、これもたくさんあるわけですが、まず妊婦健康診査事業として、妊婦の健康の保持及び増進を図りまして妊娠期間中に必要に応じた医学的検査を実施しています。

次に、乳児家庭全戸訪問事業として、妊産婦、新生児を保健師が訪問し、指導、助言を行うとともに、養育支援訪問事業として乳幼児家庭全戸訪問によりまして、特に支援を必要とする家庭への相談や支援を行っております。

次に、ワンストップ相談窓口を開設して、妊娠・出産・子育てに関して、切れ目のない支援を

目指しています。

また、子育て支援拠点事業として、乳幼児やその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育ての相談や情報の提供、助言を行っています。そしてまた、預かり保育事業として、幼稚園で教育時間終了後に引き続きのお預かりや保育所やへき地保育所でも入所児以外を一時的にお預かりする一時預かり事業も実施をしています。

さらに、病児・病後児保育事業、病気の子供あるいは病気になった後のすぐには保育所に行けない、そんな子供ですけれども、そういった乳幼児や小学生を保護者がお仕事があるというようなことで家に置けないというようなときに、そういった場合に病院でそういった病児・病後児保育事業を行っています。

また、ファミリーサポートセンター事業として子育て中の会員と子育ての援助を希望する会員相互援助活動に対する連絡調整を行っております。

また、放課後児童クラブ等育成支援事業として、保護者が仕事などで昼間、家庭にいない小学生を授業終了後に預かり、適切な遊びの場や生活の場を提供しています。

さらに、放課後子供教室、土曜学習推進事業として、放課後や週末に学校の余裕教室等を活用して、子供たちの安全・安心な活動拠点、居場所を設けて地域の方々の参画を得て学習やさまざまな体験、交流活動の機会を定期的に継続的に提供しています。

次に、特に支援が必要な子供たちのために、児童発達支援、放課後等デイサービス事業を行いまして、早期の療育を実施しています。

また、子育て支援ボランティアグループ育成事業として市内の子育てサークルの活動を支援するとともに、子育て支援NPO委託事業として市内唯一の子育て支援NPOちんぐ・ちんぐというわけですが、出張おもちゃ広場の実施を委託しています。

さらに、子育て支援人材育成事業として、子育てを支援する人たちの育成を目的として、講座の開設なども行っています。

いろいろ申しあげましたけれども、その他に幼児教育、保育施設の運営及び運営支援として、さまざまな事業を実施をしているところであります。

そして、次に支援を行う施設の数でございますけれども、まず施設、この子育ての支援を行う施設、皆さん方の質問とはちょっと感覚が違うと思いますが、市内にある12の公立保育所、それから9つの幼稚園、これは市が最も大きな子育て支援の施設だということを持っていただきたいと思っているところであります。

そのほかには、壱岐こどもセンターと同様の子育て支援を行う施設は勝本町のかざはやひろばがあります。そのほかにも放課後児童クラブ6カ所、放課後子供教室土曜学習所6カ所、病児・病後児保育施設1カ所、ファミリーサポートセンター1カ所、児童発達支援事業所1カ所、放課

後デイサービス事業所2カ所、私立認可保育所1カ所、小規模保育所施設3カ所、認可外保育施設1カ所、事業所内保育施設2カ所などがあります。

また、先ほどのスライドでありましたけれども、本当に壱岐こどもセンターは外から見ると御指摘のようにわかりづらくて、看板も古くなっております。大きく目立つ看板への書きかえや案内板の設置、そして窓を利用したウインドウディスプレイなどを検討したいと思っています。

次に、遊ぶ施設でございますけれども、現在、壱岐市には大小合わせて50カ所の市の公園があります。そのうち、遊具のある公園が41カ所です。現時点で新規に公園を整備する計画はありませんけれども、壱岐市としては現在の公園を安心して利用できるように点検、管理体制について検討しているところであります。今ある公園の充実を図ることで、子育て環境の支援に貢献をしたいと思っています。

次に、提言でございますけれども、提言1の島外と連携して優れている部分を取り入れてはどうかという提言です。これは、先ほど石田の質問にもお答えしましたけれども、子ども福祉医療について、これは小学校入学までを中学校までにしたわけですけれども、これはやはり、うちは少しおくれておりましたけれども、やはり島外の制度がもうそういうふうになったということから、29年度から実施をしたところであります。

子育て支援につきましては、行政だけでは十分でないと考えています。保護者はもちろん、学校、地域や職場、関係団体など、子育てにかかわる幅広い方々と連携して取り組むことによってその成果が出てくるものだと考えているために、市内の子育て支援団体や子育てサークル、子育て支援を行うための人材育成に対しても支援を行っております。

その団体や子育てサークルの皆さんも、他の市や町の優れている支援策などを参考に活動をされております。

壱岐市としましても、壱岐市総合戦略に掲げております「壱岐市の将来を担う子供たちを育むまちづくり」を推進するために子育て世代の要望やほかの市や町の優れた部分を参考にしながら、壱岐市に合う取り組みを研究、検討したいと考えています。

支援策を充実させるためには、支援する人材の育成や財政など問題もありますけれども、安心して子供を産める、安心して子育てができる島づくりを進めていきたいと考えています。

次に、提言の2、子育てする親に向けて教室や講習会を開いてはどうかということでもあります。

現在、壱岐市では保健師、助産師、栄養士、看護師、歯科衛生士等が妊娠・出産・子育てについて健康の面からサポートをしているところであります。母子健康手帳の交付時の面談から妊婦さんとの顔の見えるサポートを心がけておまして、赤ちゃんが生まれた家庭には訪問を行い、不安の解消に努めています。近年は、非常に若い方、あるいは逆に働く方がふえていて高齢出産等々がふえています。

一番のサポート役としては、お父さん、父親の育児参加がぜひ必要であります。ことしはそれを推進するために新たに、今までは母子健康手帳というのがあったんですけど、それに合わせてパパへ向けたサポートセットを配付するというふうにいたしております。その中で、ママへの心と身体へのサポートや受動喫煙の注意喚起を行っております。

乳幼児健診、これは乳児を1歳半、そして3歳児の検診の中では発達や子育ての悩みに寄り添いながら、産婦人科医師や小児科医師、歯科医師などのアドバイスを受けながら必要なサポートをしています。

教室や講座としては、初めて赤ちゃんを授かった人を対象に、いき☆いっぽ広場を年6回、赤ちゃんと母親の愛着形成を図るために仲間づくりや育児不安の解消、第2子以降も安心して子育てができるよう支援をしております。

また、壱岐こどもセンターでは、子育て応援講座として、あかちゃん広場、離乳食教室、就学前のお子さんを対象としたいきっこ広場、月曜ミニ広場などを開催しています。さらに、かざはやひろばでは妊婦さんや乳児の保護者を対象とした悩み相談や仲間づくりのためのベビータイム、毎月違ったテーマでの教室や講習会、季節遊びや運動遊びなどの遊び教室なども開催しています。地域支援活動として、いしだ広場やふれあいプラザ、出張広場などを開催し、地域の子育て支援も行っています。

また、子育てに必要な物資のリユースにつきましては、一部、かざはやひろばで実施していましたが、現在では、知り合いの保護者同士などでの譲り合い、あるいはインターネットのフリーマーケットの出品などが盛んに行われておまして、なかなかかざはやには必要とする物品が集まらなくなったということで、現在、中止をしているようであります。今後、教室、講座などの開催や充実、市の相談窓口のスキルアップと医療、教育、保健、福祉などの関係機関との連携をさらに密にして、子育てに対する悩みや不安の解消を図り、子育てしやすい環境づくりを推進していきたいと思っております。

3点目の地域の施設を利用して中学生が小さい子供の面倒を見る仕組みをつくってはどうかという提言です。

学校の統廃合による校舎、これにつきましては跡地の利活用についてはこれまで市民の皆様からの御意見、そして議会などからいろいろな御提案をいただいておりますが、今回、御提案の子育て支援施設としての利活用についてということであります。

現在、廃校舎等の利活用の課題としては、芦辺中学校の状況をご覧になっておわかりのように、廃校しているところの校舎については耐震化をしていません。ですから、そういった点で非常に今の校舎を使うというのは不安があります。それから、もう既に6年以上も使用していないということから校舎の利活用には相当の施設整備と予算が必要であって現状では厳しいのかなと思っ

ているところです。

一方、市内には先ほども申し上げましたように、放課後子供教室が6カ所ありまして、放課後や週末等に学校の余裕教室を活用して地域の方々が指導スタッフとなって子供たちに自然や文化、芸術等に触れる体験活動や学習の場を提供しておられます。

郷ノ浦中学校議員が御指摘のように中学生が地元の小学生等のお世話をするというのは地域とのかかわりやつながりが深まるといった大変重要なことです。数十年前になりますけれども、私たちが皆さんたちの年齢のころにはそういったことは当たり前の風景であったように今思い出しているところでもあります。しかし、皆さん方のその気持ちというのは大変うれしく、頼もしく感じております。

この件については、後ほど教育長の講評の中でも触れていただけるかなと思っておるところであります。

しかし、そのことを中学生が小さい子供の面倒を見るという、そういう仕組みをつくるということで、ある意味双方に負担がかかることも考えられます。最初はやっぱりできる範囲でボランティア的に取り組みが始めたほうがよくないかとも思いますが、教育長の意見も聞かせていただきたいと思っているところでもあります。

いずれにしても、子供は壱岐市の宝であります。皆さん方の御提言を生かし、そしてどうしたら子供たちが健やかに育つか、そういったことは今までも考えてまいりましたけれども、これからもさらにそのことに努めていきたいと思っています。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（小金丸益明君） それでは、再質問はありませんか。15番、吉田香友葵議員。

○議員（郷ノ浦中学校） 今、御回答いただいた活動の中で、私たち中学生が参加して協力できる子育て支援の活動はあるのでしょうか。

○議長（小金丸益明君） 白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 内容については、私、ぱっとこれこれだよと言えませんが、先ほど申しあげましたように、ボランティア的にまず始めていただくことが大事ですけれども、その内容について、やはりお知らせをする、そのことも怠っておりますから、保健師等といろいろ相談をして、また学校現場もございます。そういったことも研究しながら皆さん方にお手伝いいただきたいということがあれば、また学校を通じてでも、あるいはPTA等を通じてでもお願いをすることがあるかと思えます。そのときはぜひよろしくお願ひしたいと思っています。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（小金丸益明君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小金丸益明君） 以上をもって、郷ノ浦中学校の一般質問を終わります。

〔加藤仁一郎議員、黒木向日葵議員、吉田香友葵議員、日高 綾祐議員 一般質問席 降壇〕

.....

○議長（小金丸益明君） ここで、先ほどの勝本中学校、1番、下條理喜議員の再質問に対する理事者の答弁を求めます。白川市長。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 勝本中学校の再質問についてお答えをいたします。

平成26年度の子ども議会で、石田中学校から統廃合された施設を利用して専門学校などの人材育成施設をつくり、卒業後は市内で就職できるようにしてはどうかという御提言がございました。これについては、御存じのように平成29年4月に、ことし4月に、こころ医療専門福祉学校壱岐校が旧鯨伏中学校を利用してできているというところであります。

また、平成27年度には、郷ノ浦中学校が学校への太陽光パネルの設置についてという質問がありました。

今回、新しくできた芦辺小学校に太陽光パネルの設置をいたしました。平成28年度には石田中学校から市内の働く場所の確保についてという御質問がありました。

現在、原の辻ガイダンスのところにテレワークセンターをつくっておりまして、テレワークのできる職場、そしていわゆる一般の方々、そしてまた富士ゼロックスから社員が3名、あそこに本社の仕事をテレワークで仕事をしている、そういったことができています。これから、このテレワークについてはこれからどんどん発展していくと思っています。

それから、旧箱崎中学校にハッピーヒルズ幸せの丘、それから障害者支援施設希望の丘、29年4月開校でありますし、先ほど申し上げました鯨伏中学校跡地にはこころ医療福祉専門学校壱岐校ができていくというところであります。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○議長（小金丸益明君） 1番、下條議員、よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

.....

日程第4. 発議第1号

○議長（小金丸益明君） 日程第4、発議第1号、壱岐市子ども宣言の決議についてを議題とします。

提出議案の説明を求めます。7番、長島来希議員。

〔提出議員（長島 来希君） 登壇〕

○提出議員（7番 長島 来希君） 発議第1号、平成29年8月29日、壱岐市議会議長小金丸益明様、提出者、壱岐市子ども議会議員、長島来希、賛成者、壱岐市子ども議会議員、市村渉真、平田萌々香、松永彩花。

壱岐市子ども宣言の決議について、上記の議案を別紙のとおり会議規則第14条の規定により提出します。

壱岐市子ども宣言の決議。

私たちが生活している社会は、情報化が進み、生活が大きく変化するとともに、環境問題や少子高齢化の問題、頻発する自然災害など多くの課題を抱えています。私たちは子ども議会の開催を機に中学生の立場で、壱岐市の現状をもとにしてこれからの壱岐市のことについて考えてみました。

私たちの先輩が守り育ててきた伝統や文化、海に囲まれた豊かな自然や歴史ある壱岐の文化を守り、安全・安心で住みやすく、活気があり魅力あふれる島・壱岐にするために、ここに次のことを約束し、実行していくことを誓います。

1、地域の一員として、誰にでも明るく元気な挨拶を心がけ、周りの人とのつながりを深めます。

2、壱岐の美しく魅力ある自然を守り未来に残せるよう、環境美化に積極的に取り組み、また、安全・安心な住みよいまちづくりのために、防災に努めます。

3、次代を担う世代として、みずからの夢を持ち、壱岐の将来を見据えて、課題を解決できるよう、自分たちにできることから取り組みます。

以上宣言いたします。

平成29年8月29日、長崎県壱岐市子ども議会。

○議長（小金丸益明君） これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小金丸益明君） 質疑がありませんので、これで質疑を終わります。

〔提出議員（長島 来希君） 降壇〕

○議長（小金丸益明君） お諮りします。本案については、会議規則第37条第2項の規定により委員会付託を省略したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小金丸益明君） 異議なしと認めます。よって、本案については委員会付託を省略することに決定いたしました。

これから討論を行います。討論ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小金丸益明君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

これから発議第1号を採決します。この採決は起立によって行います。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（小金丸益明君） 起立多数です。よって、発議第1号、壱岐市子ども宣言の決議については原案のとおり可決されました。

以上で予定された議事は終了しましたが、この際、お諮りします。本会議において、議決された案件についてその条項、字句、数字、その他、整理を要するものにつきましては会議規則第43条の規定により、その整理を議長に委任されたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小金丸益明君） 異議なしと認めます。よって、そのように取り計らうことに決定いたしました。

以上で、本日の日程は終了しました。

これをもちまして、平成29年壱岐市子ども議会を閉会いたします。大変お疲れさまでした。

○事務局長（土谷 勝君） 皆さん、お疲れでございました。

それでは、今回の子ども議会の講評を久保田教育長にお願いをしたいと思います。久保田教育長、よろしく願いいたします。

〔教育長（久保田良和君） 登壇〕

○教育長（久保田良和君） 子ども議員としての体験が今終わろうとしています。昨年は、男性議員は3名でした。ことしは7名の構成になり、一般質問、再質問等、また違った変化を見せてくれました。

壱岐市の議員さんが16名であること、4中学校から4名ずつの議員が出ること、大変条件が整い、各学校が同じような形でこの子ども議会の体験に望むことができることは壱岐市の整ったことだと思えます。

さて、議員として質問をしたり、提言をしたり、あるいは再質問をしたりする。このようなためには準備が必要ですね。一人一人の調べる時間、4人の、あるいは生徒会役員としてのグループで協議する時間がどれだけかかったのでしょうか。石田中も特に多くの資料を用意されました。計り知れない時間のような気がします。きょうの一般質問で答弁に立った白川市長も皆さん以上の時間をかけて、その答弁に当たったわけです。

私たち、人間というのは、ほかの人がしていることはいとも簡単にらくにできているように思えます。しかし、実際にその仕事や役割をやってみると意外と難しく、時間がかかるものだとい

うことに気づかされると思うのです。

きょうの子ども議員としての体験は、そのような意味でも中学生として皆さんたちは大きな体験をしています。昨年度も議員をされた方がことしも3名いますね。つまり、2年生のときからこの体験をし、3年の今も恐らくそれぞれの学校の生徒会役員として活躍をしておられるということになろうと思います。

さて、きょうの中で皆さんが私どもに出していただいた質問内容や提言内容の詳しいことを通告といいます。通告をしていただくので、私たちが何を聞きたいのか、どんな資料を用意すればよいのかがよくわかりました。ことしは特に通告内容の質問も提言も具体的で、しかも焦点がはっきり絞られていました。再質問も出ました。再質問もできれば、勝本中学校の下條議員の分も関連はしているんですけども、通告の中に入れておいていただくと、市長の回答もすぐに出たんです。少し違ったことになったもので時間がかかりましたが、通告という制度はそういうもので、よりよい質問をすることでよりよい回答を引き出す、よりよい回答が引き出されれば、それが実行されることにつながっていくわけです。

学校関係者の方もまた次年度そういった意味での御指導もしていただくと、ありがたいです。

さて、質問とか回答等は決められた時間の中に終わることを求められますが、きょうは内容も充実をし、回答にも熱が入ったため、幾らかオーバーはしましたが、皆さんがその回答を聞いて納得をしてくれたかどうかが大切になります。また学校に帰られて先生方とも相談され、もう少し聞きたいというところはどうぞ学校を通じて議会事務局のほうにお出しただけならありがたいです。

壱岐市の議員さんたちも市長さんたちもこうして壱岐市議会のことを大事に考えながら壱岐市のことも含めて一生懸命仕事をしてあるということをおわかっていただけたと思います。

中学生に関わる一般質問等がありました。中学生として何か役に立つことをしたい。ボランティア精神にあふれていた質問や提言でした。ウルトラマラソン、新春マラソン、サイクルフェスティバル、ねんりんピック等、これまでも中学生の方が手を挙げてボランティアの活動をして壱岐市を大変いい印象で皆さんに理解してもらうことができました。

中学生のこれまでのおもてなしの心をお手本にして、今、壱岐市の小学校や中学校では次のような形で先生方と皆さんで取り組んでいます。聞かれたことありますよね。「壱岐っ子あいうえお運動」という形で、これは中学生が示してくれた壱岐のよさ、「挨拶をしよう」、「受け答えをしっかりとしよう」、「笑顔で」、そして最後の「お」が「おもてなしの心を持って」ということで勧めています。

あわせて、きょうの答弁の中心になられた白川市長は常々、私たち壱岐市の職員に次のような目を持ってと言われます。

その中から2つだけ紹介をしますと、遠くを見る目、将来を見る目、足元をしっかり見つめた上で壱岐市の将来を見つめていろんなことを考えて行動して仕事をしようね。2つ目は広く見る目、壱岐市全体のことをいつも考えて仕事に当たりなさいよ。

今後も中学生の皆さんのボランティア精神に私たちは期待をしていますし、その力を借りたいのです。壱岐市内のいろいろな催しがありますので、ぜひ積極的にそのような場面でかけてください。そしてまた、島内のイベントに参加する方に中学生のよさを見せることが、これから育つ小学生や幼稚園児にもいいお手本になると思います。一緒に壱岐市を盛り上げていけたらと思うのです。今、皆さんは生徒会役員として専門部の活動として中学校生活の中でいろいろな学校の友達を、学級を動かそうと苦労もいろいろ味わっていると思います。きょうの子ども議会を体験してわかったことや気づいたことをぜひこれからの学校生活でも生かしてほしいと思います。

また、先ほど子育て支援の中でお話いただきました、中学生としてのいろいろなやりたいこと、これまで朝早くから夕方遅くまで部活動等をしていれば、壱岐市内でいろいろあっていることはなかなか皆さんに見えたりしません。

きょうの答弁で初めて聞く子育て支援の言葉とか施設とか活動等を知ることによって少しは考えが広まっただろうと思います。例えば、中学生として小学生のお世話をしたいという一つの例でいいますと、ことしの夏休みも郷ノ浦中学校の11人の仲間は出身小学校に行き、約5日間、小学生の学習支援をしています。つまり、安心した施設の小学校、そして先生方も一緒にする小学校の中で学校に来てもらってひとまず支援をする。そのときに保護者の方は、どこで安心するかといいますと、大事な子供を預ける命を守ってくれる安心した場所だと、そこでまた中学生がいいお手伝いをしてくれる。そのようなことで皆さんの力が発揮できます。廃校になった中学校は残念ながら耐震補強等ができていない点で親さんは心配という気持ちを持たれるわけです。発想としては大変わかるんですが、その辺で少し心配な部分もありますので、もしよければ市内の小学校18もいろんな形で夏休みや土曜、日曜もどんぐり隊の活動とか、いろんなものもあります。あるいは、先ほど紹介もあったチングチングとかいう幼児の活動もありますので、もし皆さんに部活や宿題等の仕方で余裕があれば、力をぜひ貸してほしいと思います。

また、この9月は小学校の運動会のシーズンでもあります。よく最近では中学生が出身小学校に行き活動もすれば、役割も果たしてくれるということで大変小学校も地域の方にも喜ばれています。しかも、その態度が立派です。きちっとジャージを着て行って、きちっと並んで、お手本になる姿をそこで見せてくれている姿がありがたいんです。10年前までは、少しはずかしい形の部分がありました。今、中学生が小学校や幼稚園や小さい子のお手本になるということを見せようとしています。どうぞその辺もまた各学校の生徒会活動の中で広めていただけたら大変うれしく思います。

きょうの子ども議員としての体験、ぜひ皆さんがこれから18歳になれば選挙権ができます。25歳になれば、市議会議員にも立候補できます。今、座っている、その議員の席にいつかまた皆さんたちが壱岐市議会の本物の議員としてお座りいただくことを先生方も誰も楽しみにしているところです。どうぞいろいろな形で、これからは本当の勉強です。頑張ってください。夏休みの暑い中、いろいろな諸活動もあったでしょうけど、本日の子ども議員としての活動に時間を充ててくれたことは、うそをつきません、きっと皆さんの役に立ちます。また御指導いただいた先生方にも厚く御礼を申し上げ、全体の講評といたします。お疲れさまでした。

〔教育長（久保田良和君） 降壇〕

○事務局長（土谷 勝君） ありがとうございます。それでは続きまして、白川市長に御挨拶をお願いしたいと思います。白川市長、よろしく願いいたします。

〔市長（白川 博一君） 登壇〕

○市長（白川 博一君） 子ども議会の閉会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

各中学校を代表して出席いただいた16名の皆さん、大変お疲れさまでした。議員として発言された今の心境はどのような思いがあるのでしょうか。壱岐市の将来について真剣に考え、しっかりと発表されたきょうの経験は大変貴重な体験であり、ふるさとを思う心はここにいる誰もが同じであることを気づいてもらえたのではないかと考えています。

きょう、この議場で皆さんが質問、提言されたことは、壱岐市の将来に向けて安全で住みやすく、明るいまちづくりのために一生懸命考えていただいたことであり、しっかりと自分の意見を発言される皆さんを見て、私も非常に頼もしく思ったところであります。日本全国、そして世界中のどこの国でもそうですが、まちづくりというものは1人の力では到底なし得ることはできません。そこに住む人たちの生活に深く関係するととても重要なテーマであります。だからこそ、多くの人の知恵と行動力が必要となります。

壱岐市においても、市議会議員の皆様を初め、市民の皆様の知恵と行動力、御理解や御協力なくして実現することはできないのです。そして、まちづくりの方向性を決めるときには、さまざまな意見を交わし、多くの議論を重ねた結果、1つの道筋が生まれることとなります。

皆様は地方創生という言葉を目にしたことがあるでしょうか。地方創生とは、東京など大都市以外の過疎化や人口減少などが進む地方の市や町の元気を取り戻そうとする国の政策です。私たちのふるさと、壱岐も同じ状況ですが、若者は都会へ転出し、人口は減少する一方であり、将来が不安視されています。このため、安定した雇用の場、働く場所の確保などを図り、地方を元気にしよう、そして日本の発展につなげようということが地方創生のコンセプトとなっています。

また、ことしの4月からフェリーやジェットfoil、飛行機の運賃が安くなっていることは皆様も知っているかと思います。これは有人国境離島法という法律が新しくつくられたことによ

り実現しています。国境に位置する離島を無人化しないという強い思いが込められたこの法律は雇用確保対策が最も大きな一つの柱であります。

現在、雇用の場の創出につなげるために、壱岐市仕事サポートセンターを設立をいたしました。これは全国から公募して391人の応募者の中から33歳のセンター長を採用し、そして壱岐のあらゆる産業についてアドバイスを行う施設であります。

また、壱岐の魅力ある特産品などを大都市に売り込み、そのために壱岐市ふるさと商社を設立をいたしました。将来にわたる本市の活性化を見据えた市政運営に取り組んでまいりますので、詳しく知りたい方はぜひ調べてみていただきたいと思います。

また、壱岐が日本遺産に認定されたことを記念して、昨年から開催しておりますウルトラマラソンをことしも10月21日、土曜日に開催をいたします。昨年は多くの中学生の皆さんにボランティアで参加をしていただき、本当に感謝をしています。ありがとうございました。島外から参加してくださる皆さんをしっかりとおもてなしするために都合のつく方はことしもぜひウルトラマラソンに協力をしていただきたいと思います。

さて、きょうは中学生の皆さんが考えてくれた提言を私たちはしっかりと受けとめ、それぞれに回答をいたしました。私は、壱岐の子供たちは一人一人が壱岐の宝であり、将来の壱岐を背負って立つ人材と考えております。きょうの経験を多いに生かし、壱岐市の現在、そして将来に大いに関心を持っていただいて、それぞれの学校や地域で活躍され、そして将来、市議会議員や市長になって、壱岐市の振興発展をリードする人が出られることを心から願うものであります。皆さん、どうぞ頑張ってくださいと思います。

また、本日、傍聴いただきました保護者の皆様や関係者の皆様、そしてケーブルテレビをご覧いただきました市民の皆様に厚く御礼を申し上げます。子供たちのすばらしい質問や提言に頼もしく思われたものと思っております。今後とも、子供たちが心豊かにたくましく成長するよう見守っていただきたいと思います。

結びに、本日出席された子ども議員の皆さんを初め、壱岐市の子供たちの健やかな成長と今後の活躍を祈念いたしまして、御挨拶といたします。本日はまことにありがとうございました。

〔市長（白川 博一君） 降壇〕

○事務局長（土谷 勝君） ありがとうございました。

次に、子ども議会議員を代表して、郷ノ浦中学校、黒木向日葵さんから御礼の御挨拶がございます。黒木さん、よろしく願いをいたします。

〔議員（黒木向日葵君） 登壇〕

○議員（10番 黒木向日葵君） きょうは、お忙しい中、私たちの質問や提言に丁寧にわかりやすく回答していただきありがとうございました。

私たちは壱岐市の議会政治などにかかわったことがなく、今回子ども議会に参加させていただいたことで、まちづくりや医療、子育て支援にかかわる地元の現状について調べたり、意見をまとめたりする経験ができました。

これまで、議員の皆さんが活躍される姿しか知りませんでしたが、よりよいまちづくりのために議会で奮闘してくださっていることを実感しています。本当に貴重な体験をさせていただいたことに感謝しています。

郷ノ浦中学校では、郷中改革をスローガンに掲げ活動しています。郷中をもっとよりよくしていこうという思いを込め決めました。改革とは、一人一人が本気でよくしていこうという思いを持ち、きょうの議会のように意見を活発に出し合い、そして実行に移すことが大切だと考えます。

きょうの経験をこれからの学校生活に生かして、市民の一人として、これからの壱岐市のことをみずから考え、行動していきたいと思います。

きょうは本当にありがとうございました。（拍手）

〔議員（黒木向日葵君） 降壇〕

○事務局長（土谷 勝君） 以上をもちまして、平成29年壱岐市子ども議会を終了いたします。

本日はまことにありがとうございました。大変お疲れさまでございました。

午前11時47分閉会

地方自治法第123条第2項の規定により、署名する。

平成 年 月 日

議 長 小金丸益明

署名議員 下條 理喜

署名議員 土肥ちひろ